

レジデントカリキュラム **放射線科**

概 要

近年、診療に従事するにあたり画像診断法の習得は不可欠である

放射線科では超音波検査以外の大部分の非観血的画像検査とカテーテル検査および IVR、放射線治療、核医学診断を行っており、基本的技術から専門的かつ最新の技術習得を目指す。なお、当院は日本医学放射線学会放射線科専門医修練（認定協力施設）機関の認定、日本 IVR 学会専門医修練施設認定及び日本放射線腫瘍学会施設認定を受けている。

研修内容

1) 研修内容の概要と終了時の目標

1. レジデントの目標は放射線科専門医試験に合格するのに必要な知識を付けることおよびそれに伴う診断、治療技術の習得とする。放射線科専門医試験の受験資格は初期臨床研修期間終了後、総合修練機関または修練機関での 3 年間以上の研修である。専門医は専門医資格取得後、2 年間の研修を経て診断専門医試験または治療専門医試験を受験する。

2. 専門医試験に必要な研修内容は

放射線生物学、医学物理学、放射線防護・安全管理、画像診断学、核医学、IVR および放射線治療学のすべての分野
となっており、当院でのレジデントカリキュラムはこれにのっとり作成されたものである

2) 年次別カリキュラム（研修期間の選択科目として放射線科を選択しなかった場合。選択したものは一部重複する）

1. 1年次

放射線基礎知識（被曝管理、放射線生物学、放射線物理学）の習得
単純写真（胸部、腹部、骨など）の読影
一般放射線診断法（胃透視、注腸検査、泌尿器科造影検査など）の習得
マンモグラフィー読影
CT/MRI の基本習得
血管造影法およびインターベンションの基本習得
RI 検査の基本読影
放射線治療の基礎知識

2. 2年次

三次元 CT/MRI 診断法の習得
CT/MRI の高度応用
血管カテーテルの検査術者、インターベンシオナリストとしての技術習得
臨床研究、論文作成、国内外学会報告

3. 3年次

各専門分野の診療技術習得と臨床研究の発展

各種画像診断法の先端的、統合的応用
カテーテル治療法の先端応用

経験手技と症例数

午前中は各検査部門を月単位で重点的にローテーションし、午後からはスタッフとともに読影業務を行う。

- 1) CT:約1200件/月
- 2) MRI:約550件/月
- 3) 胃透視、注腸:約20件/月
- 4) その他の検査は適宜

研修方法

スタッフ医師の指導のもとに、放射線科での上記の各種検査を担当し、画像の読影、解析からレポート作成までを行う。

- 1) 各種カンファレンスに参加する
- 2) 核医学、放射線治療に関しては3ヶ月単位で別途習得をする
- 3) 病棟での患者受け持ち、当直業務はなし

カンファレンス等の週間スケジュール

- 1) (定期)
 - ・ 研修医読影カンファレンス(月1回)
 - ・ 外科・消化器科・内科との合同カンファレンス(月1回)
 - ・ キャンサーボード(月1回)
 - ・ 産婦人科との術前カンファレンス(週1回)
- 2) (不定期)
 1. 大阪市大病院放射線科との合同カンファレンス(随時)
 2. 河内長野医師会との合同放射線読影セミナー

研修記録と終了評価

- 1) レジデントは、担当した検査、IVRの件数を、年度ごとに指導責任者に報告する。同時にその年度における研修内容などについて、指導責任者との意見交換を行う。
- 2) 指導責任者は、各年度の達成状況を確認する。
- 3) 3年終了時には指導責任者が評価し、研修委員会において修了を判定する。